

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01622

研究課題名(和文) グローバルバリューチェーンと経済発展：企業レベル分析

研究課題名(英文) Global Value Chains and Economic Development: A Firm-level Analysis

研究代表者

浦田 秀次郎 (Urata, Shujiro)

早稲田大学・国際学術院(アジア太平洋研究科)・名誉教授

研究者番号：10185085

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：1980年代以降、多国籍企業は生産工程を分割し、生産工程を複数の国々に配置するというフラグメンテーション戦略を進め、グローバルバリューチェーン(GVC)を形成した。GVC形成の動きは21世紀に入ると飛躍的に拡大したが、背景には技術進歩や貿易・投資自由化などによる輸送・通信コストの削減があった。本研究ではアジア諸国を対象として企業によるGVC参加の決定因を分析すると共にGVC参加による企業への影響を分析した。分析結果からは、高生産性の企業、高度な技術を有する企業、規模の大きい企業、外資系企業においてGVCへの参加の割合が高いこと、また、GVCへの参加は企業の生産性向上に貢献することが認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

経済成長・経済発展は多くの国々にとって重要な目標となっている。経済成長の実現にあたっては生産性の向上が重要な役割を果たす。本研究では生産性の向上にあたっては、企業により構築されるグローバルバリューチェーンが大きく貢献することが示された。

研究成果の概要(英文)：Since the 1980s, multinational corporations have shifted from a strategy of placing all production processes in their home country to a fragmentation strategy that involves dividing the production processes and locating these processes in multiple countries. By linking these production processes, global value chains (GVCs) have been formed. The movement towards forming GVCs has expanded dramatically since the beginning of the 21st century because of significant reductions in transportation and communication costs due to technological advancements and trade and investment liberalization policies. This study analyzes the determinants of firm's participation in GVCs and the impact of GVC participation on firms, focusing on Asian countries. The analysis revealed that firms with high productivity, advanced technology, large scale, and foreign capital have a higher rate of participation in GVCs and it was found that participation in GVCs contributes to the improvement of firm productivity.

研究分野：経済学

キーワード：グローバルバリューチェーン(GVC) 生産性 多国籍企業

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

1980年代以降、多国籍企業は従来の全生産工程を本国に置き、生産された製品を外国に輸出するという戦略から、生産工程を分割し、分割した生産工程を複数の国々に配置するというフラグメンテーション戦略へと移行した。それらの生産工程を連結することで、多くの国々を巻き込む形でグローバルバリューチェーン(GVC)が形成されていった。GVC形成の動きは21世紀に入ると飛躍的に拡大した。その背景には、技術進歩、規制緩和、貿易・投資自由化政策などによる輸送および通信コストの大きな削減があった。本研究では、アジア諸国を対象として、企業によるGVC参加の決定因を分析すると共にGVC参加による企業への影響を分析する。

2. 研究の目的

本研究の目的は近年の世界経済、特に世界貿易において重要性を増しているグローバルバリューチェーン(GVC)について、企業によるGVC参加の決定要因とGVC参加による企業行動およびそれらの企業が立地する国々の経済、さらにはそれらの企業で働く労働者への影響を分析することである。分析では、世界銀行のEnterprise Surveyを中心に企業レベルの情報を用いた定量分析を行い、産業、立地、生産性や利潤率等の国や企業の特徴を考慮した場合に企業によるGVCへの参加が企業活動にどのようにそしてどの程度影響を与えているかを明らかにする。具体的には、以下の5点を企業レベルで解明することが目的である。すなわち 企業のGVC参加の決定因は何か GVCは参加する企業にとって輸出機会を拡大させたのか GVCは高い品質の部品の輸入を可能にすることで競争力を向上させたのか GVCを通じて優れた技術や経営ノウハウの移転を促進し企業の生産性を高めたのか、である。

3. 研究の方法

世界銀行のEnterprise Surveyや日本政府により公開されている企業活動基本調査などから企業に関するデータを取得する。それらのデータから輸入と輸出を同時に行っている企業をGVC参加企業とみなしGVC参加企業とその他の企業(GVC不参加企業)に分類し、これらの二つのグループに関して生産性など企業のパフォーマンスの違いを計量経済学的手法を用いて検証する。

4. 研究成果

とでは、GVCに参加する企業の特徴を明らかにした。は申請者が編集した書籍の序章であるが、GVC参加における企業特性を検証した研究のサーベイをし、同書籍に収められた国別分析のまとめを提示している。一方、では世界銀行のEnterprise Surveyに含まれている111か国から入手した約40,000社のデータを用いてGVC参加企業の特徴を検討した。分析結果からは、高い生産性を持つ企業、高度の技術を有する企業、規模の大きい企業、外資系企業においてGVCへの参加の割合が高いことが明らかになった。

④、⑤では、GVC参加による企業のパフォーマンスへの影響を検証した。GVC参加は企業にとって様々な要因から生産性を向上させる効果を持つことが予想される。例えば、海外からの高品質の中間財の輸入は生産効率を向上させる。一方、輸出については輸出を通じての海外からの競争圧力は企業の効率を向上させる。これらの仮説を検証した。

では国際産業連関表を用いて47か国の産業レベルのサンプルを対象として、GVCへの参加による生産性への影響を分析した。ここではGVCを後方連関(調達)と前方連関(販売)に分類して分析を行った。分析結果からはGVC参加は生産性向上効果を持つことが認められた。特に発展途上国については先進諸国から中間財を調達することが生産性の上昇に大きく貢献することが

明らかになった。

④、⑤では企業に関するデータを用いて、企業による GVC 参加が企業の生産性に与える影響を分析した。④では日本企業について分析を行い、⑤ではインドネシア、フィリピン、ベトナムの企業についての分析を行った。日本企業についての分析結果では、企業による GVC 参加は企業の生産性の向上をもたらしたが、その効果が発出するまでに時間がかかることが明らかになった。一方、インドネシア、フィリピン、ベトナムに関する分析では、ベトナムにおいてのみ生産性向上効果が認められた。

“ Does Participation in Global Value Chains Increase Productivity? An Analysis of Trade in Value Added Data ” Thailand and the World Economy, vol. 38, no. 1, 2020 pp. 1-28 (with Y. Baek)

“ Introduction and Summary ” in S.Urata ed. Enhancing SME Participation in Global Value Chains, Asian Development Bank Institute, Tokyo, 2021 pp.1-24

“ The Determinants of Participation in Global Value Chains: A Cross-Country, Firm-Level Analysis ” S.Urata ed. Enhancing SME Participation in Global Value Chains, Asian Development Bank Institute, Tokyo, 2021 pp.25-86 (with Youngmin Baek)

“ Impacts of firm ’ s GVC participation on productivity: A case of Japanese firms ” Journal of the Japanese and International Economies, vol. 66, December 2022 (with Youngmin Baek)

⑤ “ Does global value chain participation improve firm productivity? A study of selected ASEAN developing countries, ” Asian Economic Journal, Vol. 37, No. 2, June 2023, pp. 232-260 (with Youngmin Baek)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Urata Shujiro, Baek Youngmin	4. 巻 66
2. 論文標題 Impacts of firm's GVC participation on productivity: A case of Japanese firms	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 101232 ~ 101232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jjie.2022.101232	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Baek Youngmin, Urata Shujiro	4. 巻 37
2. 論文標題 Does global value chain participation improve firm productivity? A study of selected ASEAN developing countries	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian Economic Journal	6. 最初と最後の頁 232-260
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/asej.12304	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Shujiro Urata editor and author	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Asian Development Bank Institute	5. 総ページ数 455
3. 書名 Enhancing SME Participation in Global Value Chains	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	白 映旻 (Baek Youngmin) (00844185)	福山大学・経済学部・講師 (35409)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	横田 一彦 (Yokota Kazuhiko) (40390819)	早稲田大学・商学学院・教授 (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関